

センター 月 だより

《6月分の活動状況報告》

東濃西部少年センター

- ・今年の梅雨の前半は例年より雨の日が多く、後半は一転して猛暑日が続く、街頭指導には大変ご苦勞をおかけいたしました。
新しいメンバーでの最初の街頭指導でしたが、出席率は約9割に達し、皆さんの意気込みを感じております。

・主な地区別活動

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
活動延べ回数	16	9	14	39
声かけ人数	246	40	93	379
指導人数	16	5	4	25
指導員参加人数	92	31	53	176

(指導日誌より)

- ・多治見地区
自転車(二人乗り、並列走行、一方通行の逆走、ヘルメットの着用なし)のマナー違反指導が多くありました。本町交番で車から女子高生を盗撮する行為が2件発生しているとの情報がありました。
(該当者は特定され、警察官より厳重注意処分を受けております。)
音羽交差点近くのサブという店はAKBグッズが置いてあり、高校生のたまり場になっています。
- ・瑞浪地区
陶地区の交番より帰宅途中の中学生に声かけする事例が発生しているとの情報がありました。
国道19号バイパス高架下にバーベキューをした形跡があり、ゴミも散乱しており、要注意箇所である。
(今後とも引き続き、注意をはらってください。)
- ・土岐地区
駅裏の電話ボックス付近で、高校生の男女の座り込みや、屯する行動が多く見受けられました。

・新任研修会

今年初めて少年指導員をお務めいただく104名の方を対象にした新任研修会を6月11日(土)に「まなびパークたじみ」で開催しました。出席者は49名でしたが、この研修会の前半は「少年センターの紹介」と「指導員の心得」についての説明に続き、街頭指導の実際をビデオで視聴していただきました。また、研修のメインである後半の公開座談会では「若者を理解し若者に近づくために」をテーマに座談会の3人の参加者の方々から、これまでの豊富な体験を踏まえ、指導のノウハウや若者によせる想いなどを熱く語っていただきました。
大変説得力のある内容で、いろいろ気付かされる点も多く、これからの街頭指導に活かされることを期待しています。

過去は問わない

「過去は問わない。大切なのは、今日から何をするかだ」

これは、私が中学校で学級担任をしたとき、出会いの最初の日に言っていた言葉です。

多感な少年期に、失敗はつきものです。でもその失敗をいつまでも取りざたされては、たまったものではありません。今年はいいスタートを切ろう、という気持ちを育てたいものです。問題にするのは、今日からの行動なのです。

しかし、大人の失敗では、「過去は問わない」と言えない場合もあると思います。

「生き方サプリメント101錠」第2集
多治見市教育長 村瀬登志夫